



# JAPANESE PATENT OFFICE

JP8198274

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

### PACKAGING BAG

Publication date: 1996-08-06  
Inventor(s): KURIBAYASHI SADATOMO  
Applicant(s): KAYSEVEN CO LTD  
Application Number: JP19950006219 19950119  
Priority Number(s):  
IPC Classification: B65D30/24; B65D33/25  
EC Classification:

---

#### Abstract

---

#### PURPOSE:

To provide a packaging bag which easily and sufficiently removes air remaining in a bag after its opening is closed and which can maintain satisfactorily the state of being evacuated.

#### CONSTITUTION:

In a packaging bag, an item is stored between a front sheet member 2 and a rear sheet member, both of which are flexible. The bag has an opening with a fastener 6, through which the item is stored. A small hole 12 for deaeration is made in the front sheet member 2, in the corner of the bag. Around the small hole 12 is a joining part 14 where the front sheet member 2 and the rear sheet member are so joined as to enclose the small hole 12. The joining part 14 extends around the small hole 12, having an uncontinuous part 15 opposite the corner of the bag. Between the joining part 14 and the small hole 12 is an unjoining area 16, where the front sheet member 2 and the rear sheet member are not joined. An evacuation mechanism 10 comprises the small hole 12, joining part 14, and unjoining area 16.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-198274

(43) 公開日 平成8年(1996)8月6日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 30/24	Z			
33/25	A			

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-6219

(22) 出願日 平成7年(1995)1月19日

(71) 出願人 000129851

株式会社ケイセブン

東京都千代田区丸の内2丁目4番1号

(72) 発明者 栗林 定友

東京都目黒区柿ノ木坂2丁目21番22号

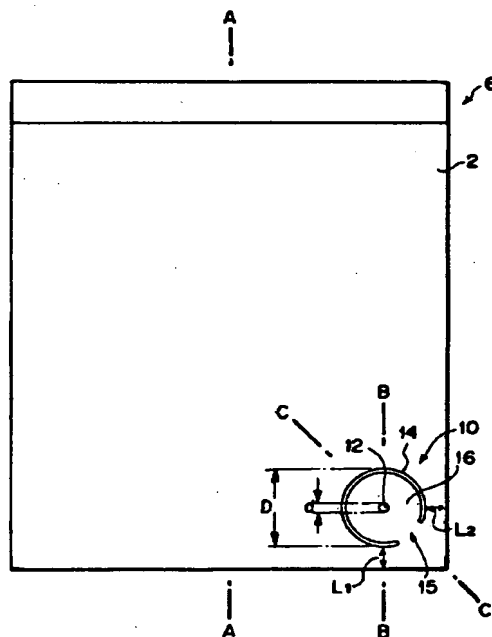
(74) 代理人 弁理士 山下 稔平

(54) 【発明の名称】 包装用袋

(57) 【要約】

【目的】 袋の開口部を閉止した後に袋内に残留する空気を簡単且つ十分に脱気し、この脱気状態を良好に維持することができる包装用袋を提供する。

【構成】 可撓性を有する正面側シート部材2と背面側シート部材との間に物品を収容する。物品を収容するためのファスナー6付きの開口部を有する。袋の隅部において、正面側シート部材2に脱気用小孔12が形成されている。小孔12の周囲において小孔12を囲む様に正面側シート部材2と背面側シート部材とが接合された接合部14が形成されている。接合部14は小孔12の周りで袋の隅に面する位置に不連続部分15を有して延在している。接合部14と小孔12の間には正面側シート部材2と背面側シート部材とが接合されていない非接合領域16が介在している。小孔12と接合部14と非接合領域16とを含んで脱気機構10が構成されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 正面側可撓性シート部材と背面側可撓性シート部材との間に物品を収容するためのものであり該物品を収容するための開口部を有している包装用袋であって、前記正面側可撓性シート部材及び前記背面側可撓性シート部材の少なくとも一方に脱気用小孔が形成されており、該小孔の周囲において該小孔を囲む様に前記正面側可撓性シート部材と前記背面側可撓性シート部材とが接合された接合部が形成されており、該接合部は前記小孔の周りで少なくとも 1 つの不連続部分を有して延在しており、前記接合部と前記小孔の間には前記正面側可撓性シート部材と前記背面側可撓性シート部材とが接合されていない非接合領域が介在しており、前記脱気用小孔と前記接合部と前記非接合領域とを含んで脱気機構が構成されていることを特徴とする、包装用袋。

【請求項 2】 前記脱気機構は袋の隅部に形成されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の包装用袋。

【請求項 3】 前記脱気機構の接合部は 1 つの不連続部分を有し、該不連続部分が前記袋の隅に面する位置に存在していることを特徴とする、請求項 2 に記載の包装用袋。

【請求項 4】 前記脱気機構の接合部はとびとびに形成された複数の不連続部分を有していることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の包装用袋。

【請求項 5】 前記脱気機構の接合部は円形であることを特徴とする、請求項 1～4 のいずれかに記載の包装用袋。

【請求項 6】 前記脱気機構の小孔は円形であることを特徴とする、請求項 1～5 のいずれかに記載の包装用袋。

【請求項 7】 前記脱気機構の小孔はスリットであることを特徴とする、請求項 1～5 のいずれかに記載の包装用袋。

【請求項 8】 前記開口部にはファスナーが付されていることを特徴とする、請求項 1～7 のいずれかに記載の包装用袋。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、包装用袋に関し、特に、簡単な構造で物品収容後の脱気性能の向上を企図した包装用袋に関する。本発明の包装用袋は、例えば、家庭において食品を収容して冷蔵庫または冷凍庫内にて保存するのに有効に利用することができる。

## 【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来、肉や魚などの食品を冷蔵庫内や冷凍庫内にて保存する際には、該食品を包装用袋内に収容している。これは、食品どうしが接触するのを防止したり食品の臭いが他の食品に移るのを防止したり食品中の水分が抜けるのを防止したりするという目的他に、食品が空気中の酸素に触れて酸化し鮮度低下するのを防止するという目的もある。

る。

【0003】 このための袋としては、合成樹脂シート（フィルムを含む）からなる矩形状のものが一般に利用されている。この袋は、矩形状の一边が開口されており他の 3 辺が閉止されている。食品は開口辺に形成された開口部から袋内へと収容され、該袋の開口部近辺の部分を用いて自己束縛したり適宜の用具を用いて束縛したりされる。最近では、開口辺にファスナーを設けた袋も利用されている。これによれば、食品収容後に該ファスナーにより容易に閉止することができ、密閉が一層確実になされる。

【0004】 ところで、袋の開口部を閉止する際には、袋内部の空気をできるだけ排出することが好ましい。これは、上記の如く食品が空気中の酸素に触れて酸化し鮮度低下するのを防止するという目的他に、食品収容済の袋の体積をできるだけ小さくして冷蔵庫内または冷凍庫内への収納効率を高めるという目的もある。

【0005】 この様な食品収容済の袋の脱気のために、従来の袋では、袋内部の空気をできるだけ排出した上で開口部を閉止することがなされているが、この開口部の閉止と脱気とを一時に行うと十分な脱気ができないことが多く残留空気の量を十分に低減することが困難である。

【0006】 そこで、本発明は、袋の開口部を閉止した後に袋内に残留する空気を簡単且十分に脱気することができる包装用袋を提供することを目的とするものである。本発明は、また、以上の様にして閉止した袋の脱気状態を良好に維持することができる包装用袋を提供することを目的とするものである。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明によれば、上記目的を達成するものとして、正面側可撓性シート部材と背面側可撓性シート部材との間に物品を収容するためのものであり該物品を収容するための開口部を有している包装用袋であって、前記正面側可撓性シート部材及び前記背面側可撓性シート部材の少なくとも一方に脱気用小孔が形成されており、該小孔の周囲において該小孔を囲む様に前記正面側可撓性シート部材と前記背面側可撓性シート部材とが接合された接合部が形成されており、該接合部は前記小孔の周りで少なくとも 1 つの不連続部分を有して延在しており、前記接合部と前記小孔の間には前記正面側可撓性シート部材と前記背面側可撓性シート部材とが接合されていない非接合領域が介在しており、前記脱気用小孔と前記接合部と前記非接合領域とを含んで脱気機構が構成されていることを特徴とする、包装用袋、が提供される。

【0008】 本発明の一態様においては、前記脱気機構は袋の隅部に形成されている。

【0009】 本発明の一態様においては、前記脱気機構の接合部は 1 つの不連続部分を有し、該不連続部分が前

10

20

30

40

50

記袋の隅に面する位置に存在している。

【0010】本発明の一態様においては、前記脱気機構の接合部はとびとびに形成された複数の不連続部分を有している。

【0011】本発明の一態様においては、前記脱気機構の接合部は円形である。

【0012】本発明の一態様においては、前記脱気機構の小孔は円形である。

【0013】本発明の一態様においては、前記脱気機構の小孔はスリットである。

【0014】本発明の一態様においては、前記開口部にはファスナーが付されている。

【0015】

【実施例】以下、図面を参照しながら本発明の具体的実施例を説明する。

【0016】図1は、本発明による包装用袋の一実施例を示す正面図であり、図2はそのA-A一部省略断面図であり、図3は図1のB-B断面(a)及びC-C断面(b)を示す図である。

【0017】図において、2は可撓性を有する正面側シート部材であり、4は可撓性を有する背面側シート部材である。これら2つのシート部材は、袋の左右両辺及び下辺において接合されており、袋の上辺は接合されておらず開口部として形成されている。該袋の上辺の正面側シート部材2及び背面側シート部材4には、ファスナー6が設けられている。7aはファスナー雄部であり、これは背面側シート部材4の上辺に接合されている。7bはファスナー雌部であり、これは正面側シート部材2の上辺に接合されている。ファスナー6は、雄部7aと雌部7bとを互いに外側から圧迫することにより、開口部を閉じることができる。

【0018】袋の右下隅部には、脱気機構10が設けられている。該脱気機構は、正面側シート部材2に形成された脱気用小孔12を有しており、該小孔12の周囲において該小孔を囲む様にして形成された接合部14を有している。この接合部14は正面側シート部材2と背面側シート部材4とを溶着等により接合してなるものである。該接合部14は、小孔12の周りで円形状をなして延在しているが、1つの不連続部分(正面側シート部材2と背面側シート部材4とが接合されていない部分)15を有しており、該不連続部分15は袋の隅(隅部の頂点)に面する位置に存在している。接合部14と小孔12との間には正面側シート部材2と背面側シート部材4とが接合されていない非接合領域16が介在している。

【0019】小孔12の直径はd(例えば3mm)であり、接合部14の円形状の直径はD(例えば30mm)であり、該接合部14の不連続部分15が小孔12の中心に対して張る角は約45°である。また、接合部12と袋下辺との間の距離はL<sub>1</sub>(例えば10mm)であり、接合部12と袋右辺との間の距離はL<sub>2</sub>(例えば1

0mm)である。

【0020】上記正面側シート部材2及び背面側シート部材4は、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル等の合成樹脂を用いることができるが、特にこれらに限定されることはなく、適度の可撓性を有するものであればよい。

【0021】次に、以上の様な本実施例の袋の作用に関し説明する。

【0022】図4に示されている様に、物品(例えば肉等の食品)20を袋内に収容し、ファスナー6により開口部を閉止する。この際、脱気機構10では、接合部14により囲まれた円形領域(非接合領域16)では、接合部14の存在に基づき正面側シート部材2と背面側シート部材4とは密着状態であり、これらの間にて空気が流通することは殆どない。

【0023】次に、図5に示されている様に、(1)→(2)→(3)→(4)→(5)→(6)と順次袋内の中央部に存在せる物品20の周囲を正面及び背面の両側から手指で押すことにより、物品の周囲に残留せる空気を脱気機構10を介して押出す。この際には、上記図3に対応する図6に示されている様に、接合部12と袋下辺との間(接合部12と袋右辺との間も同様)ならびに接合部不連続部分15及び非接合領域16において、正面側シート部材2と背面側シート部材4とが離隔して空気通路が形成され、ここを通過して小孔12から脱気が行われる。尚、図6において(5)及び(6)は上記図5における(5)及び(6)の操作の際の手指で押す動作を示している。本実施例では、脱気機構10が袋の隅部に設けられており且つ不連続部分15が袋の隅に面する位置に存在しているので、該袋隅部へと追込まれた空気の圧力に基づき、上記接合部不連続部分15及び非接合領域16において正面側シート部材2と背面側シート部材4とを効率よく離隔させて脱気することができる。

【0024】脱気した後は、もはや上記脱気時の様に上記接合部不連続部分15及び非接合領域16において正面側シート部材2と背面側シート部材4とを離隔させる袋内空気圧は存在しないので、脱気機構10は上記図3に示される様な状態となる。この状態の脱気機構10では、袋内から袋外への空気の流通はもちろん袋外から袋内への空気の流通もない。袋外から袋内への空気の流通がないのは、次の理由によるものである。即ち、正面側シート部材2と背面側シート部材4とは、互いに平行に存在しており、このため、袋内の圧力が多少小さくなったとしても、小孔12の周囲の非接合領域16では2つのシート部材2、4が密着しているため、外部からの空気流入が阻止されるからである。

【0025】尚、この2つのシート部材2、4の密着には、空気中の水分や物品から発散される水分も寄与する。即ち、この水分の存在(微量ではあっても)により、密着性は高められる。特に、物品が食品の場合には

かなりの水分を有するので、この水分の寄与は大きい。更に、脱気後は正面側シート部材2と背面側シート部材4とが互いに平行に存在しているので、小孔12を介して水分が蒸発する開口面積は極めて小さく、水分の蒸発も極めて少ない。従って、小孔12の周囲の非接合領域16での2つのシート部材2、4の密着性能は容易には低下しない。

【0026】以上の様に、上記脱気機構10は空気流通の逆止め弁としての機能を有するものである。即ち、袋内に残留する空気を簡単且つ十分に脱気した後は、脱気機構10の作用により該脱気状態を良好に維持することができる。かくして、物品が生鮮食品等である場合には、その鮮度を良好に維持することができる。

【0027】図7～図12は、脱気機構10の変形例を示すものである。これらの図において、上記図1～図6におけると同様の機能を有する部材には同一の符号が付されている。尚、図7及び図10～12は、いずれも脱気機構を示す模式的正面図であり、図8及び図9は、いずれも脱気機構の上記図3(a)に対応する部分を示す断面図である。

【0028】図7の例では、接合部14の形状が正方形である。図8の例では、正面側シート部材2及び背面側シート部材4の双方に小孔12、13が設けられている。図9の例では、正面側シート部材2の小孔12と背面側シート部材4の小孔13とが重ならない様にずれて配置されている。図10の例では、接合部14はとびとびに形成されており、即ち該接合部はとびとびに複数不連続部分15を有する。この様な形態であっても本発明の効果は達成される。即ち、本発明では、袋内への物品収容の際の正面側シート部材2と背面側シート部材4との離隔の影響が接合部不連続部分15を介して小孔12の近傍の非接合領域16まで及ばない限り有効である。図11の例では、小孔12がスリットからなる。図12の例では、正面側シート部材2及び背面側シート部材4の双方にスリットからなる小孔12、13が設けられており、これらスリットは互いに直交して配列されている。

【0029】

【発明の効果】以上の様に、本発明によれば、簡単な構成で逆止め弁として作用する脱気機構を設けることにより、袋内に残留する空気を簡単且つ十分に脱気して、該\*

\*脱気状態を良好に維持することができる。これにより、物品が生鮮食品等である場合には、その鮮度を良好に維持することができる。また、物品収容済の袋の体積を十分に小さくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による包装用袋の一実施例を示す正面図である。

【図2】図1のA-A一部省略断面図である。

【図3】図1のB-B断面及びC-C断面を示す図である。

【図4】図1の包装用袋内に物品を収容した状態を示す断面図である。

【図5】図1の包装用袋内に物品を収容した後に残留空気を脱気機構を介して押出す操作手順を示す正面図である。

【図6】図1の包装用袋内に物品を収容した後に残留空気を脱気機構を介して押出す操作時の状態を示す断面図である。

【図7】脱気機構の変形例を示す模式的正面図である。

【図8】脱気機構の変形例を示す断面図である。

【図9】脱気機構の変形例を示す断面図である。

【図10】脱気機構の変形例を示す模式的正面図である。

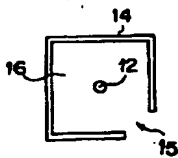
【図11】脱気機構の変形例を示す模式的正面図である。

【図12】脱気機構の変形例を示す模式的正面図である。

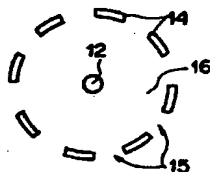
【符号の説明】

2	正面側シート部材
4	背面側シート部材
6	ファスナー
7a	ファスナー雄部
7b	ファスナー雌部
10	脱気機構
12	脱気用小孔
13	脱気用小孔
14	接合部
15	接合部不連続部分
16	非接合領域
20	物品

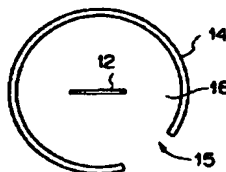
【図7】



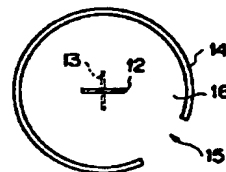
【図10】



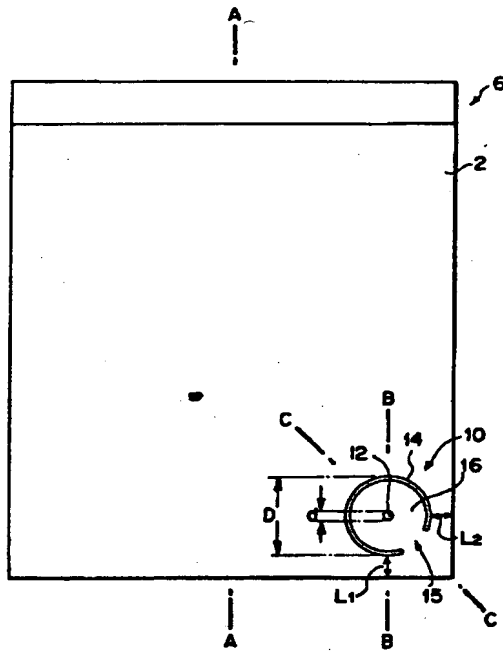
【図11】



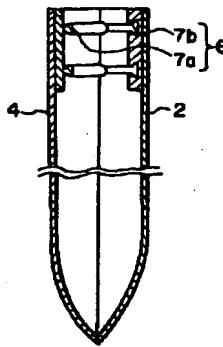
【図12】



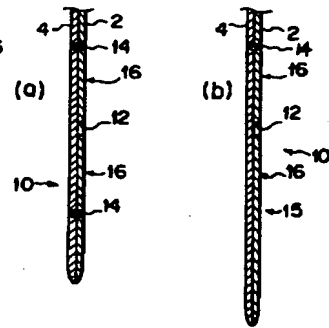
【図1】



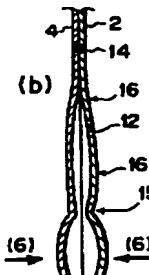
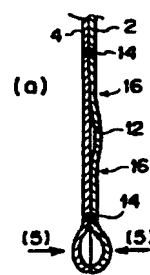
【図2】



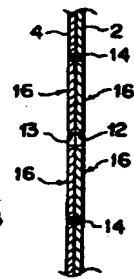
【図3】



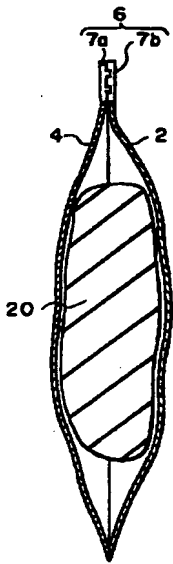
【図6】



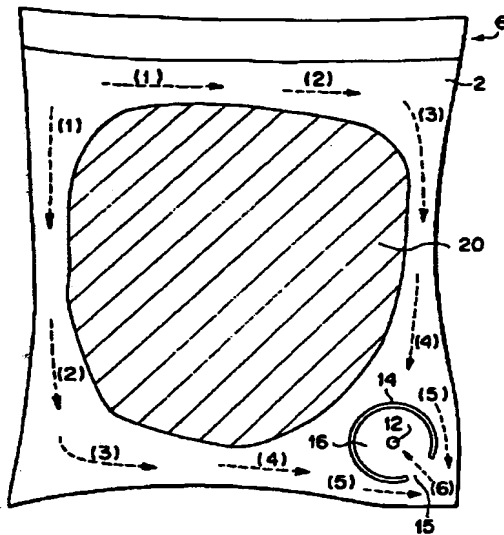
【図8】



【図4】



【図5】



【図9】

